

# 令和 6 年度（2024 年度）事業報告書

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人アプカス

## 1. 事業の成果

活動国であるスリランカでは、2022 年にコロナ禍の長期化と過剰債務に伴う外貨準備高の不足により、大きな社会的混乱が生じました。政治・経済の混乱は市民生活にも波及し、ガソリン不足や停電の頻発、高インフレ率など、日常生活に深刻な影響を及ぼしました。

2023 年には、コロナの収束による人の移動と経済活動の回復が見られ、さらに 2024 年には債務返済に向けた枠組みの整備が進んだことで、統治体制・経済・生活環境は徐々に安定を取り戻しつつあります。一方で、経済活動の本格的な回復には至っておらず、物価高が続くなか、貧困ライン以下で暮らす世帯数はコロナ以前と比べて高止まりしています。

当会は、「貧困」や「社会課題」の解決を目指し、現場での実践と試行錯誤を重視したソーシャルビジネスによる国際協力事業を精力的に行っています。中核事業の一つである「食と健康をテーマにした総合食品ブランド Kenko1st の運営による有機農産物・食品の販売と農家の収入向上事業」は、取り組み開始から 11 年目を迎えました。本事業では、無農薬・無化学肥料に加え、養分やエネルギーの地域循環に着目した循環型農業技術の普及を推進。活動地域をスリランカ全土へと拡大し、収穫された農産物や加工食品は、自家圃場や連携農家グループから集荷され、コロンボ市の直営店「Kenko 1st Organic Shop (<https://kenko1st.org>)」や、大手スーパーマーケットで販売されています。今年度は、有機農産品を中心に 400 品目の食品、100 を超える生産者と常時取引するまでになりました。

2024 年には日本での販売強化にも着手し、7 月には東京ビッグサイトで開催されたウェルネスフード展に、アプカスの連結会社である合同会社 EZOZEN 名義で出展。スリランカの伝統医療「アーユルヴェーダ」のハーブ・スパイスを用いた新しいハーブティーシリーズを紹介しました。今後も Kenko1st Organic を「健康的な食と生活を提案する公益的食品ブランド」として位置づけ、生産者と消費者の両方を支える基盤をさらに整備します。

併せて、ケゴール県での「廃棄物のバナナファイバーを使用したクラフト商品開発事業」も継続し、女性および障がい者グループの生産体制を強化。今年度も生産・販売の支援を行いました。

もう一つの中核事業である「視覚障がい者雇用促進のためのマッサージサロンの運営事業」では、視覚障がい者が働く指圧サロン「Thusare Talking Hands (<https://thusare.info/>)」が開設 14 年目を迎えました。2023 年前半は経済混乱の影響で低調な状況が続きましたが、後半には人の移動の回復や観光客の増加により、客足も戻りつつあります。2022 年 4 月に完了した JICA 草の根技術協力事業による指圧トレーニング強化の成果もあり、顧客からの評価は高く、現在も質の高い施術の提供を継続中です。所属する視覚障がいのある指圧師も 8 名に回復し、新たな希望者へのトレーニングや観光地での新店舗開設に向けた準備も進行中です。

中部州における「プランテーション長屋再建プロジェクト」では、京都大学の研究室と連携し、紅茶の名産地である同地域に点在するイギリス植民地時代の「タミル人の旧紅茶プランテーション長屋」を改修。地域住民と協力し、ゲストハウスとして再活用することで、住民を主体として体験型ツーリズムを通じた地域活性化を目指しています。今年度は、訪問客、日本の大学生インターン、研究者の受け入れが前年より増加し、拠点としての機能強化が進んでいます。

また同地域では、「酪農の導入による生計向上支援事業」を継続実施。希望世帯には牛銀行方式で牛を提供し、地域に適した酪農技術の指導を行いながら、集乳センターの活用も含め、酪農を地域の基幹産業として育てる取り組みを行っています。

「循環型農業・林業による地域交流促進」では、これまでスリランカで培った循環型農業や環境保全に関する知見をもとに、日本事務所のある北海道函館市でも試験的な農作物の栽培、加工、調査、ネットワーク構築を小規模ながら展開しました。

「国際協力や地域開発に関する調査研究、支援情報収集と発信事業」では、スリランカと日本双方における各種事業についての情報収集、学生インターンの受け入れ、大学（北海道教育大学函館校、沖縄国際大学）での講義を実施。さらに 2024 年 3 月には、京都大学にて、スリランカに関わる実務者と研究者が一堂に会するイベント「舌で知り、頭で味わうスリランカ」を京都大学人間・環境学研究科学術越境センターと共催しました。続く企画として、2024 年 7 月には京都市が運営する京都ソーシャルイノベーション研究所（SILK）とともに「ソーシャルキャリアの歩き方」を企画・開催し、50 名の学生・市民に対して当会の活動紹介とキャリア形成事例の共有を行いました。こうした機会を通じて得た多様なネットワークを今後も活用し、分野を越えた連携によりスリランカの社会課題解決を目指します。

また、学生インターン生との協働により、公式 WEB サイト（<https://apcas.org/>）および SNS での情報発信の強化にも取り組みました。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施月日	実施の場所	従事人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
地域開発事業	食と健康をテーマにした総合食品ブランド Kenko1st の運営による有機農産物・食品の販売と農家の収入向上事業	通期	スリランカ西部州コロombo県、スリランカ全土	16 名	100 生産農家グループ	0 千円 (※現地事業法人で運営)
	廃棄物のバナナファイバーを使用したクラフト商品開発事業	通期	スリランカサバラガムワ州ケゴール県	5 名	40 名の女性と知的障がい者	0 円 (※現地事業法人で運営)
〃	視覚障がい者雇用促進のためのマッサージサロンの運営	通期	スリランカ西部州コロombo県	18 名	8 名の視覚障がい当事者とその家族	59 千円 (※現地事業法人で運営)
〃	紅茶プランテーション長屋再建プロジェクト	通期	スリランカ中部州キャンディ県	8 名	6 世帯	0 円 (※現地事業法人で運営)
〃	酪農の導入による生計向上支援事業	通期	スリランカ中部州キャンディ県	9 名	290 名	0 円 (※現地事業法人で運営)
〃	循環型農業・林業による地域交流促進	通期	函館市近郊 スリランカ	4 名	10 名	0 千円 (※本年度は計上なし)
この会の活動を促進するための情報収集事業	国際協力や地域開発に関する調査研究、支援情報収集と発信事業	通期	スリランカ 日本（北海道、京都）	7 名	500 名	50 千円

※当該年度はスリランカ側(現地別法人)の資金で実施している

### (2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施月日	実施の場所	従事人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
物品販売事業	農作物商品等の開発と販売事業	なし				本年度は活動なし
地域開発事業 (その他事業)	受託事業等	なし				本年度は活動なし